

風

にじぐみ (一歳児クラス)

熊谷 明子

テーマとした理由や背景

・4月に部屋の窓から見えるテラスに風車を設置すると、子どもたちが風車の存在を気にするようになった。

「今日は、回っているね。」 「あれ？動いてない。」

・扇風機を使用する時期に、ただ扇風機を回すのではなく子どもたちには見えない「風」を感じられればと思い、扇風機に銀テープを設置。扇風機を回すとテープの揺れに歓声を上げたり、テープの音に気付き、耳を澄ます姿が見られた。

上記のことから、目に見えない「風」を子どもたちがどのように感じ、どのような遊びを楽しめるのか？一歳児ならではの「風」の捉え方や言葉の表現を探ろうと思い、このテーマにした。

活動スケジュール

第一回	11月下旬
第二回	12月上旬
第三回	2月上旬
第四回	2月中旬

わらべうた遊び 「うえからしたから」 (11月上旬)

期待する経験

- ・ わらべうた遊びを楽しむ。
- ・ 布を通して風を感じ、風の心地良さを味わう。
- ・ 友だちと関わり合いながら同じ遊びを楽しむ。

環境設定

- ・ 子どもの人数：9人、大人の数：3人
- ・ 場所：保育室(家具を端に寄せ、空間を広く取った)
- ・ 大きなオーガンジーの布



子どもの様子や言葉

- ・ 保育者のわらべ歌の歌声に興味を示し、布の中に入ること何が始まるのかと心を躍らせていた。
- ・ 布が下から上に上がる度に、両手を布に向けて上げ「わぁ～！！」と歓声が上がる。
- ・ 布が上から下に降りる時には、上げていた手を下げる子が多い。また、風を感じて頬を両手で押さえる子がおり、その姿を真似することを楽しむ子もいた。
- ・ 歌と一緒に口ずさむ子もいた。
- ・ 友だちの姿を真似、他者と同じ行動をする事を楽しむ。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・子どもたちが普段から楽しんでいるわらべ歌を通しての風遊びだったので、興味を引いた。
- ・子どもたちの表情から、布を上から下に下ろす時の方が風を感じやすい。
- ・風を感じるというよりも、歌に合わせて布が上下する様子を楽しんでいたようにも感じる。また、友だちの行動や声を真似る子が次々に増え、歓声を上げながら楽しんでいた。
- ・風を肌で感じる以外に可視化の方法はないのか。→ 紙吹雪を使って試してみたい。
- ・布を持ちたがる子がいた。→ 次回は、持たせてみよう。

クラスとして

- ・布を子どもたちに持たせることで、新たな一面が見られたかもしれない。
- ・紙吹雪を使用しての可視化は、面白いかもしれない。
- ・今回は園にあった透ける布を使用したけど、風を起こす為にはしっかりした布を使用した方が、風を感じることはできるのではないかな。



わらべうた遊び 「うえからしたら」 (12月上旬)

期待する経験

- ・ わらべうた遊びを楽しむ。
- ・ 布を通して風を感じ、風の心地良さを味わう。
- ・ 友だちと関わり合いながら同じ遊びを楽しむ。
- ・ 紙吹雪で風を視覚からも感じる。
- ・ 自分で布を持つことで、風を起こす感覚を楽しむ。



環境設定

- ・ 子どもの人数：9人、大人の数：3人
- ・ 場所：保育室(家具を端に寄せ、空間を広く取った)
- ・ 大きなオーガンジーの布、子どもがちぎった花紙



子どもの様子や言葉

- ・ 布が下から上に上がる度に、両手を布に向けて上げ「わぁ～！！」と歓声が上がる。
- ・ 歌と一緒に口ずさむ子もいた。
- ・ 布を子どもたちに持たせると、保育者の真似をして上下に動かす子、持つこと自体が嬉しく飛び跳ねながら歓声を上げる子がいた。
- ・ 紙吹雪が舞う様子を目で追い、布から落ちた紙吹雪を拾い上げる。
- ・ 紙吹雪を拾い上げる時に「これ、〇〇くんがビリビリした？(物)」
- ・ 保育者の「ビューン」という言葉を真似る。

振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 布を目で追いながら、上下する度に起きる風を楽しんでいた。
- ・ 前回の反省から子どもたちに布を持たせてみたが、大人が布を持った時よりも子どもたちの腕の可動域が狭かった為、少ししか風を起こすことができなかった。
- ・ 風の可視化を狙って紙吹雪を用いてみたが、子どもたちだけでは風を起こすことが難しく、紙吹雪がうまく飛ばなかった。

クラスとして

- ・ 子どもたちが布を持ったことで起きた風の少なさや紙吹雪の舞いの少なさを大人は物足りなさを感じたが、子どもたちにとってはそれほど問題ではなく、十分に前回よりも楽しめていたのではないかと感じる。
- ・ ふんわりと花紙が宙に舞うことはなかったが、横に飛んだのは感じとっていた。
- ・ 目に見えない空気の動きを、感覚としては捉えられたのではないかと感じる。

飛行機になって飛んでみよう！ (2月上旬)

期待する経験

- ・ 全身で風を感じながら、みんなで走る楽しさを味わう。
- ・ 向かい風・追い風の違いを感じる。

環境設定

- ・ 場所：散歩先の内裏谷戸公園の広場
- ・ にじぐみ 5人、はなぐみ 4人、大人 3人



子どもの様子や言葉

- ・ 保育者の真似をし、両手を横に広げて広場を走り回る。
- ・ 「ブーン」と言いながら走り、友だちや保育者が走り疲れて止まると「もっと」「飛ぶよ。」「行こう！」等の誘う言葉掛けが多く聞かれた。
- ・ 向かい風になった時に、全身に風を受けるからか(抵抗感を感じて?)笑いながら走る子が多い。
- ・ 追い風や向かい風を、自分の意思で選んで走る姿は見られないが、たまたま走った方向から感じる風向きの違いは、表情から感じ取っているように感じた。
- ・ 両手を広げて寝転んで、風を感じる子がいた。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・散歩先の公園で、たまたま強い風が吹いていたことから始めた飛行機遊びだったが、上空を飛行機が飛んでいたこと、はなぐみの子どもたちも一緒だった等が重なって、より一層楽しく遊べた。
- ・子どもたちに追い風や向かい風の区別は付かないだろうが、追い風の時には走るスピードが速くなり、向かい風になる時には笑い声が多かった。
- ・スズランテープ凧を持ってこなかったことに後悔。いつ自然の強い風に出会えるか話からないので、散歩時には常に持参しようと思った。
- ・大の字に寝転んで風を感じるという発想は保育者にはなかったので、面白い風の感じ方だと思った。

クラスとして

- ・この遊びの後、散歩時に風が吹いていると両腕を広げて走り回る姿が多く見られた。反対に風が吹いていない時には、このような姿は見られなかった。
- ・向かい風は風に乗れることから、子どもたちは本能的に走りたくなるのでは。
- ・子どもたちにとって風とは、身体全体で感じるものなのかもしれない。

うちわ遊び

(2月中旬)

期待する経験

- ・うちわを通して、自分で風を起こすことを楽しむ。
- ・うちわの使い方を知る。
- ・自分が起こした風の力で、絵が見えることを楽しむ。
- ・風によって出るスズランテープの音に気付く。
- ・うちわの持ち方や動かし方で、風が起きる方向の違いに気付く。



環境設定

- ・「かぜ びゅんびゅん」の絵本
- ・うちわ：ひとり一本
- ・下絵の上からスズランテープで隠した紙6枚
- ・スズランテープのカーテン
- ・活動時だけでなく、日常の遊びの一つとして常に設置



子どもの様子や言葉

- ・ 風ではなく、うちわ全体を使ってスズランテープを直接動かす子が多い。
- ・ 絵が見えることに成功すると、次々に場所を移動してうちわを動かす。
- ・ 直接うちわで触れないように絵の掲示位置を高くすることで、風を起こす子が増えてきた。
- ・ うちわを壁に打ちつけるようにして、風を起こす子が多い。また、風よりも、打ちつけて出た音を楽しむ姿も見られる。
- ・ 子どもの言葉：「出てこい！出てこい！」「パタパタパタ。」「見えた！」「出た！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 部屋の中の遊びとして常設したことで、うちわの使い方に変化が見られる子が出てきた。(風を起こす方向を考えて、うちわの持ち方や手首の振り方を変える等。)また、うちわを使って他児に風を吹かせる遊びもよく見られるようになった。
- ・ 保育者が風を起こす時に「上から 下から」からの歌を歌ったり、「かぜ びゅんびゅん」の絵本に出てくる言葉の一節を言うと真似る子がいたが、子ども自身から風を表現する言葉を使う姿は見られない。言葉を習得中の今の時期に、見えない風を表現する言葉は難しい。

クラスとして

- ・ 対象の物に対して、うちわで風を起こすということを子どもたちは理解している。
- ・ 一回の活動だけではなく、いつでも遊べるように道具を常設したことで、うちわの使い方が分かってきた。経験を積み重ねることで、探究へとつながっていく。
- ・ 2回目の花紙を使用したわらべ遊びでもうちわを使用したら、紙吹雪が宙に舞う姿が見られて面白かったかもしれない。また、そこでうちわの経験をしてたら、今回の遊びで違う姿も見られたのでは。

まとめ

- ・子どもたちにとって目に見えない風は、ものを通して感じたり、身体全体を通して感覚的に感じとっているのではないだろうか。
- ・クラス全体で動くのではなく少人数の環境にすることで、個々の興味関心を保育者が瞬時に受け止められ、そのことによって子どもたちの更なる探究心が生まれる。
- ・一時の遊びではなく、継続できる遊びの環境を設定することで、子どもが探求する姿に繋がる。
- ・まだ言葉を獲得中のこの時期の子どもたちから、風を表現する言葉を引き出す事は難しかった。

